



医療法人 円会  
瀬口脳神経外科病院

# まどか

第5号

## 病院理念

- 私たちは、地域の皆様から信頼される病院づくりに勤めます
- 私たちは、患者様のための心のこもった医療サービスを提供します
- 私たちは、常に脳・脊髄疾患の専門病院として高度且つ最新の医療を提供します



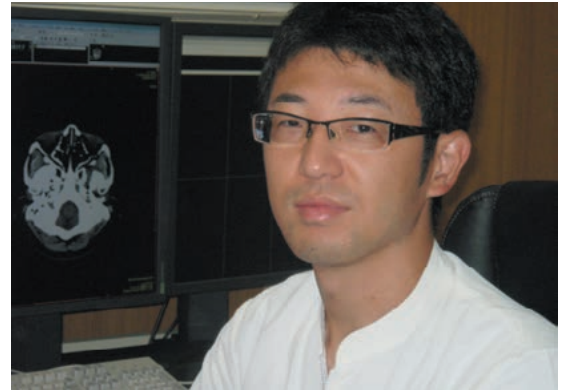
よこね田んぼとコスモス 撮影：中島一男

### 主な記事

- 脳卒中後遺症の新しい治療  
～ボトックス治療～…………… 2・3
- お勧め料理…………… 3
- CIセラピー  
上肢片麻痺に対するリハビリテーションについて… 4
- 第35回開院記念行事…………… 5
- 医師紹介…………… 6
- 外来診察案内…………… 6
- 脳ドック案内…………… 6

# 脳卒中後遺症の新しい治療 ～ボトックス治療～

脳神経外科医 黒岩正文



厚生労働省より発表されている平成21年人口動態統計によりますと、日本人の死亡原因のうち、脳血管疾患は第3位となっています。また、脳卒中は2007年国民生活基礎調査によりますと、介護が必要となる原因の第1位となっており、この高齢化社会において、その絶対数は今後更に増えていくであろうと思われます。脳卒中を起こさないように予防医学を発展させるとともに、脳卒中による後遺症を改善させ、本人の自立を促し、介護者の負担を軽減させていく必要があります。

今回お話をさせていただくボトックス治療は、正に時代が必要としている治療と言えます。この治療は、A型ボツリヌス毒素を使用しています。ボツリヌス菌というと飯寿司（いずし）などの発酵食品による食中毒を連想されるかと思われますが、その菌の特性を活かした治療がボトックス治療という事になります。歴史的には1977年に米国の眼科・形成外科医であるAlan Scott博士が初めてこれを斜視に対して臨床応用したところから始まります。その後1996年に日本で眼瞼痙攣に対する使用が承認され、2000年に片側顔面痙攣、2001年に痙性斜頸、2009年に2歳以上の小児脳性麻痺患者における下肢痙縮に伴う尖足に対して承認されました。そして2010年に上肢痙縮・下肢痙縮（図1）に対する使用が認められたのです。

痙縮とは何かといえますと、平たく言えば脳卒中後に筋肉の一部がカチン・コチンになってしまい、痛くなったり、ものを掴んだり離したりができなくなったり、移動が困難になったりする事です。介護する側にとっては、身の回りのケアがしにくくなり、おむつ交換が困難で不衛生になったり、食事の介助がしにくくなったり、移動させるのが大変になったりします。その痙縮した筋肉に対して、ボトックス治療を施してあげる事で筋緊張が和らぎ、患者本人の苦痛を改善し、介護者の負担を軽減する事ができるのです。

治療に際しては、まず痙縮によって阻害されている機能（歩行、ADL、快適さ、介護）を評価します。次に治療目標を設定し、痙縮が局所で筋肉の過活動を抑える事が治療目標の達成に有用かどうかを判断します。有用であると判断されたら、入院してボトックス治療を行うこととなります。

ボトックス治療は、筋肉内に細い針を使って注射します（図2）。効果発現までは数日間かかり、3ヶ月から6ヶ月間効果が持続します。主な副作用としては過度の筋力低下がありますが、この薬のいいところは副作用も数ヶ月間で消失するという事です。入院期間は、およそ5～7日間となり、その間積極的にリハビリを行っていき、固まってしまった筋肉をほぐして機能の改善に努めます。効果が得られれば、反復投与が可能であり、他の部位へも治療範囲を広げる事が可能です。

ボトックス治療は、2009年脳卒中治療ガイドラインでも痙縮による関節可動域制限に対して、グレードA（行うよう強く勧められる）で推奨されており、世界で広く行われている治療です。少しでも興味を持たれましたら、気軽に外来へお越し下さい。よりわかりやすく説明いたします。職員一同、お待ちしております。

図 1. 下肢痙縮による姿勢異常のパターン



出典：Brin MF et al. Muscle Nerve 1997; Suppl 6: S208-220

図 2. ボトックス治療の一例：  
尖足改善のため、ヒラメ筋へボトックスを注射している。



出典：グラクソ・スミスクライン株式会社 説明資料

## お勧め料理 『宝袋煮』

秋から冬に向かって煮物が美味しい季節になりました。  
いつもの料理に一工夫。見た目も楽しい袋煮を紹介します。

四角形(8cm位)の油揚げを袋状に開き その中に生卵を  
1個落とし入れ 口を楊枝で閉じておきます。

だし汁 200cc に好みの味付け(砂糖 醤油 みりん等)で中火で20分位蓋をして煮ます。  
一緒に人参きのこ等野菜も入れ煮付けます。お弁当のお惣菜にもなりますね。



当院の盛り付け例  
カロリー 161kcal 蛋白 10.0g  
塩分 0.9g

管理栄養士 田中

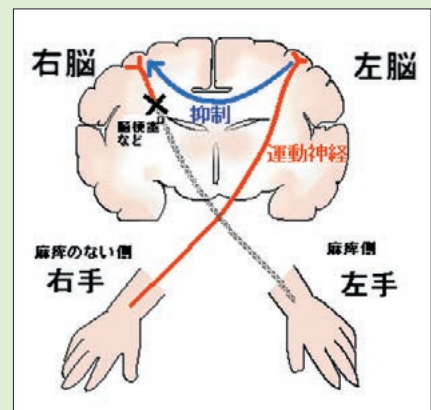
## ～CIセラピー～ 上肢片麻痺に対するリハビリテーションについて

脳卒中になると片方の手足に麻痺が残ることは多くの方がご存知と思います。これまでは麻痺のない側の手で手順や道具を工夫するリハビリテーションが多く行われてきました。しかし最近では脳卒中後、麻痺のない側の手を使いすぎると麻痺側の手の回復が妨げられるという研究が報告されています。

左右の脳は脳梁という神経回路を介してそれぞれを抑制しあいながらバランスを保っています。例えば右手に刺激を加えると左脳に刺激が送られ活動が活発になります。さらに脳梁を介して右脳の活動を抑制するよう命令が送られます。通常でしたら左側からも抑制刺激が入るため問題は生じません。

しかし脳卒中により右脳からの抑制刺激が途絶えると左脳が過剰に麻痺側の脳を抑制してしまい運動障害が悪化するということです。

では麻痺のない側の手を拘束して使用できないようにし麻痺側の手ばかり使ったらどうか。このような考えからCIセラピーは考え出されました。



CIセラピーは麻痺していない側を拘束し、麻痺の改善を目指す訓練方法です。24時間中90%、麻痺のない側に手袋(ミトン)を着用し2週間程度生活します。

CIセラピーの対象になるのは身の回りの動作が自立していること、握る・離す等の動きが出来ない重度麻痺がないことです。また認知症がないこと(どうして手を拘束した治療を行なうのか理解する必要がある為)です。

CIセラピーはリハビリスタッフとの個別訓練と病室や自宅で行う訓練とを組み合わせで行います。リハビリスタッフとの訓練は患者様の出来るようになりたい目標に沿って課題を決め、繰り返し訓練を行ないます。目標が達成されたら、日常生活の中でその動作を麻痺側の手を使って行うよう患者様と約束します。その様子を毎日リハスタッフが確認し徐々に自然と麻痺側の手が使えるようにしていきます。

CIセラピーは日本脳卒中学会の脳卒中ガイドラインにおいても高い効果を認められています。対象を十分に考慮する必要がありまた動く方の手を拘束するという患者様の心理的負担もあります。当院では患者様に十分に説明した上で、病棟にて看護師がストレス等心理的負担状態を評価し無理のない範囲で急性期よりCIセラピーを実施しています。

作業療法士 鎌倉史佳

# 第35回 開院記念行事

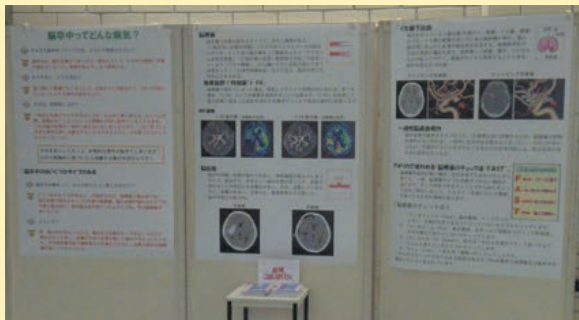
本年6月6日に、瀬口脳神経外科病院は開院から35周年を迎えることができました。

これにあたり、昨年に引き続き医師からの講演を中心にした開院記念行事を開催致しました。今年にご参集いただきました方々にも体験できる企画を用意しての開催となりました。



講演は『脳卒中後遺症後の新しい治療～ボトックス治療～』と題しまして医長の黒岩医師より講演をさせていただきました。ボトックス治療の概要から、臨床における効果など、写真などを織り交ぜた講演をさせていただきました。100名を超える方々にご参集いただき大変盛況でありました。ボトックス治療は脳卒中後の後遺症の一つである“痙縮”（手足の筋肉が突っ張り、動かしにくい状態）に対して効果を期待されている治療です。講話に参加いただいた方の半数程度の方がご存知で興味があった治療でもあり、脳卒中治療・予防の啓蒙活動の一端を担う講演として、良い話題となったかと思えます。（詳細は冒頭ページをご覧ください）

又、看護部・検査科・脳ドック部門の各部署より、特色を活かしたパネル展示を行いました。看護部は「脳卒中とその治療」。検査科は「動脈硬化の検査と診断」。脳ドック部門は「体成分分析と内臓脂肪」です。現在も待合ホールに展示してありますのでご覧ください。



合わせて、実際の検査機器を使用した体験コーナーも設置いたしました。短時間の開催にも関わらず、定員一杯の多くの方にご参加いただき大変好評をいただきました。

平日で数時間の開催ではありましたが、多くの方にご参集いただき、盛大に行うことができました。来年も皆様のご期待に応えられますよう準備委員会一同お待ちしております。

開院記念行事準備委員長 佐々木 史光

# 医師紹介



宮岡嘉就 医師

はじめまして。黒岩先生の後任で10月から勤務となりました宮岡と申します。

生まれは鳥取県で宮崎の大学を卒業して、長野県に来て今年で9年目となります。

専門は脳血管障害と脊髄疾患になります。飯田地域で高いレベルの医療を提供できるよう、いち早く新しい知識や技術を取り入れ、皆様の治療に役立てればと考えています。何卒宜しくお願い致します。

## 外来診療時間

受付時間	月曜日～金曜日	午前8時30分から午前11時30分まで
	土曜日	午前8時30分から午前11時まで

## 休診日

日曜日、祝祭日、第2・4土曜日、第1・3・5土曜日午後、年末年始、盆休

## 担当医

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	瀬口達也 院長	宮岡嘉就	瀬口達也 院長	中村昭則 (信大神経内科 教授)	瀬口達也 院長	銭坂英生 又は 他 医師
	木内貴史 10時から		木内貴史 10時から	黒岩正文 (信州大学) 10時から	宮岡嘉就 10時から	

担当医は変更になることがありますので、電話にてお問い合わせください

**但し急患は 365日 24時間受け付けいたします**  
☎ 0265-24-6655

## 脳ドック ～随時予約受付中～



- ①一般コース：月～金曜日の午後に検査。後日、結果報告を実施。
- ②日帰りコース：奇数週の土曜日の午前に検査と結果報告を実施。

\*お申し込み、お問い合わせは下記ドック室へお願いいたします。  
ドック室直通TEL：0265-24-7667 FAX：0265-24-6776  
脳ドックメール：noudokku@seguchi-nouge.or.jp  
ホームページ：http://www.seguchi-nouge.or.jp/

## 病院だより 第5号

発行 ■ 医療法人円会  
瀬口脳神経外科病院  
住所 ■ 長野県飯田市上郷黒田218番2  
発行日 ■ 2013年10月  
代表電話 ■ 0265-24-6655  
問い合わせ先 ■ 医療支援部 宮澤明啓

**編集後記** 爽やかな秋、果物、新米、きのこなど美味しい食材が出回っています。脂肪を蓄え過ぎないように食べ過ぎには注意したいものです。寒い季節に向け、体調を崩さないためにも、うがい、手洗い、規則正しい生活を心がけていきたいですね。